

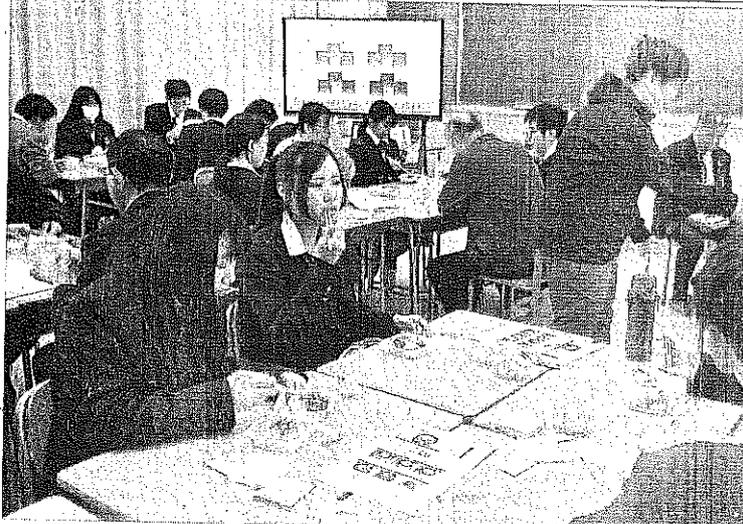
# はまぐりご飯弁当開発へ

## 潮来高生 試食し改善点発表

県立潮来高校（潮来市須賀、高野光章校長）の生徒たちが潮来市に提案した地域資源活用アイデア「はまぐりご飯弁当の開発」がスタートした。市、地元スーパー、地元の食品会社、金融機関などが「高校生の夢を叶えるプロジェクト」と題し、連携して取り組むもので、同校で19日、生徒らによる試食会とワークショップが行われた。3月24日に市内で完成お披露目会を実施する。

今回の商品開発は、昨年9月に潮来高や筑波大、麗沢大などが参加して開かれた「高大連携事業」（市主催）において、各グループから寄せられた数々の提案

の中から高評価を得たアイデアを具現化する。高校生  
の意見を取り入れながら、  
地元スーパーのセイミヤと  
タイヨーが鹿嶋産のハマグリと潮来産の白米を使った



「はまぐりご飯弁当の開発」がスタートし、試作品の弁当やおにぎりを食べる高校生ら＝県立潮来高

弁当をそれぞれ商品化。今後、高校生を絡めた販売会のほか、将来的には都内でのイベントなどで売り出す考え。  
セイミヤ（潮来市潮来）は、殻付きの鹿島灘はまぐりをちらしずしの上ののせた華やかな「はまぐりあさりご飯」や「パエリアはまぐりご飯」の2商品を試作品として持参。タイヨー（神栖市大野原）は、都内での販売を念頭に、高速バスや電車内で食べやすいようにコンパクトにまとめた「はまぐり混ぜご飯」のおにぎりを若手社員が考案し、高校生たちに提供した。  
食後には、良かった点や改善点をグループごとに書き出し発表。「食材全てに味がしっかりついていておいしかった」という意見が出る一方、「ハマグリ

に少し癖があった」という改善を求める声や、「おにぎりはお箸を使わなくて良いので食べやすい」とする意見に対し「おにぎりがラップに付いて食べづらい」という声も聞かれた。

今回は3月9日に校内試食会が予定されており、今回寄せられた意見や要望を取り入れながら商品化に近づける。昨年9月に「はまぐりご飯弁当の開発」を提案した1班のリーダーを務める地域ビジネス科2年の石山祐羽さんは「すごくおいしかったので店頭で並ぶようになれば良い。自分たちが発表したアイデアが形になるのはとてもうれしい」と笑顔を見せた。  
（小室雅一）